

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Spring 2019

Vol. 42

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOUJYUEN



TOPICS

HOUJYUEN×FAMILY

MORE CROSS

HOUJYUEN'S ALBUM

SPECIAL SECTION

トピックス

T O P I C S

職員研究発表会を開催しました！

3月20日に、豊寿園の職員が一年間かけて取り組んだ研究や企画成果の発表会を行いました。今回は1階介護、2階介護、生活相談員、機能訓練指導員から5本の発表が行われ、厳正な審査の結果、1階介護職員 益田さんが発表した身体介護等を職員二人一組で行う取り組み、「介護におけるバディシステム」という発表が最優秀賞を受賞しました。



災害想定での防災訓練を実施しました！

3月13日に、震度5の地震の後、施設内で出火したという想定での、防災訓練を実施しました。

当日は、地震発生時の対応方法と、出火時の初期消火から避難誘導までの流れを確認しました。



自己評価報告会を開催しました！

2月26日に、外部の第三者委員を交えて自己評価報告会を開催しました。各サービスの自己点検と昨年度中にいただいた苦情内容や、利用者様を対象に実施した満足度アンケートの結果を総括しました。



新園長就任のごあいさつ



平素より、豊寿園をご利用いただいている皆様をはじめ、ご家族様、地域の皆様、ボランティアの皆様、そして多くの方々に、温かいご支援ご協力を賜り心から厚く感謝申し上げます。このたび4月1日付をもって、豊寿園園長を拝命いたしました荒巻義徳でございます。前園長同様変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

豊寿園は、平成9年の開設から6月で23年目を迎えます。

私自身、平成9年の開設時から途中異動をはさみ8年間施設運営に携わっておりましたが、また、縁あって10年ぶりに豊寿園で勤務させていただくこととなりました。急速な超少子高齢化の進行など社会状況は、大きく変化しており、ご利用者様のニーズに対応したサービスを提供するための人材確保を含め非常に厳しい状況となっております。

そのような状況下ではございますが、赤十字の福祉施設として、「地域に愛される施設」を基本理念に、ご利用者様に対して安心・安全・すこやかなる日々の生活を提供できる施設づくりを目指し、職員一同力を合わせ進んでまいり所存でございます。

ご家族の皆様をはじめ、地域の皆様、ボランティアの皆様におかれましては、これまで以上のご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

豊寿園園長 **荒巻 義徳**

このたび3月31日付をもちまして豊寿園を定年退職いたしました。福岡赤十字病院に昭和50年入社以来、44年もの永きに亘り公私ともに格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。その間、大過なく勤めることができ充実した赤十字での人生を送ることができましたこと重ねてお礼申し上げます。末筆ながら皆様のご健康とご多幸をこころからお祈り申し上げ、略儀ながら書中をもってお礼かたがたご挨拶申し上げます。

豊寿園 前園長 森 広樹

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は前回に引き続き、奥水介護課長による川谷照美様へのインタビューをお届けします。お母様の豊寿園への入所からお看とりまでの経過、思いをお話いただきました。

自宅玄関までの階段が上げられないようになってから外泊するのは止めましたが、それから数年間で段々と歳を重ねる中で身体は弱って行きました。それでも話しはできていましたし、私も定期的に面会に行つて会話を楽しむことができていました。

その頃に一度体調を崩して総合病院に入院しました。その後位から段々自分で食事を摂る事や座っておく事が難しくなつて、横になつて過ごす時間が増えていきました。食事を飲み込むのが下手になつて、痰がのどに絡むようになっていきました。

— 段々と歳を重ねる中で身体は弱って行きました。 —



今回インタビューに応じてくださった 川谷 照美様



— なんとなく結論は先延ばしにして豊寿園に戻る事だけを決めました。 —

それから数年間の母は、車椅子が大きな物になったり、横になる時間も増えて行きましたが、それでも起きている時には会話をすることができていました。その後、誤嚥性肺炎で総合病院に入院することがあり、一時は食事が摂れず、鼻からの管で栄養を流してもらうこともありましたが、何とかまた食事を摂ってくれるようになり、退院する事ができました。

そして、亡くなる前の年の9月に熱が出て総合病院に連れて行つてもらつたところ、肺炎とうつ血性心不全と言われ入院することになりました。

担当の先生からは、心不全の状況が相当悪く、急変や急死の可能性があるので覚悟しておくように、と説明されました。病院からは退院するのなら母の最期ということをしつかり考えるようにも言われて、ある程度のは覚悟はしていましたが、なんとなく結論は先延ばしにして豊寿園に戻ることを決めました。

— 先延ばしにしていた結論を出さないといけない時でした。 —

結局、1ヶ月くらいで豊寿園に戻ることになったのですが、心不全の状態はほとんど改善していない中で退院でした。豊寿園に戻つてからの母は、何とか口から食事を食べることはできていましたが、量は少ししか摂れなくなっていました。退院してすぐに嘱託医の渡邊先生とお話しがあると呼ばれ、先生の病院でお会いしました。渡邊先生からは、心不全の状態が相当に悪いので療養型医療機関などで点滴加療を受けるのか、豊寿園で最期まで過ごすのか家族で方向性を考えるように、と説明を受けました。退院の時に先延ばしにしていた結論を出さないとけない時でした。

—最終的には豊寿園で看取ることに
対して覚悟ができてきました。—

実は渡邊先生とお話したのはこの時
が2回目で、その前はちょうどこの一
年前にお腹に大きな大動脈りゅうが
あるので、いつ破裂して急死してもおか
しくない、というお話しでした。母のこ
れからをどうしようか、と悩みました
が、あの時のお話から一年経った今の
母を見た時に、母の希望が叶う毎日な
らどんな治療でも受けさせてあげたい
けど、会話や食事もろくにできなく
なった今の状態ならば、なるべく無理
なことはせずに、静かに亡き父のもとへ
行かせてあげたい、という思いに到り
ました。

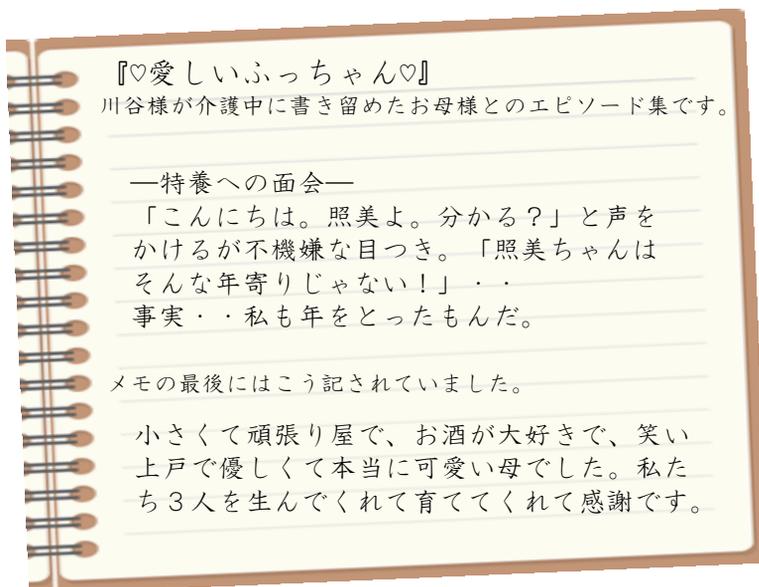
もう一つは、やっぱり病院と豊寿園で
は母の表情が全く違う、ということ
です。病院は病気を治す所です。けれど、
病院で点滴を受け手足がパンパンに腫
れた母を見た時、これ以上は受けさせ
たくないと思っていました。豊寿園では
点滴もなければ、無理な事は何もしな
いでくれる。そんな風にいるいろと考
えて、最終的には豊寿園で看取る、と
いうことに対して覚悟ができてしまし
た。兄にも相談しましたが、入所の事
も含めて私に一任していたので問題は
なかったのですが、兄嫁は看護師をし
ていた為か「最後は病院に…」と何度か
言われました。

—母は元々酒問屋の娘。みんなの酒好
きは母の血を引いています(笑)—

結局母は、豊寿園で看取りをするこ
とになってから2週間で父のもとに行っ
てしまいました。途中から食べ物を口
にすることは全くなりませんでした
が、職員さんの提案で大好きだったお
酒を口に含ませてあげることでもできま
した。そこから少し持ち直してくれて、
私や兄たちと一緒に家族の時間を過
ごすこともできました。おかげで私も
兄もしばらく禁酒させられました。母
は元々酒問屋の娘。みんなの酒好きは
母の血を引いています(笑)。最期の日、
母は面会に来ていた私達が一旦帰った
後すぐ息を引き取りました。『最期の
時だけは見せたくなかったんでしょ
うね』と相談員さんが慰めてくれました。
やつと大好きな父の所に行けたと思
いますが、やっぱり寂しいですね。夜お酒
を飲みながら、豊寿園さんから頂いた
入所中の母の写真を見てると涙が出
ます。本当にここまで皆さんにしてい
ただけるのかと、家族みんなで感謝し
かありません。

介護をして苦労をしたと思われる
るかもしれませんが、そんなことあり
ません。困った時、帯状疱疹になった時、
これ以上は私がノイローゼになると感
じた時は、必ずデイサービスの方に相
談をして、乗り切ることができました。

母との生活も今思えば楽しかった。そ
の分、自分の子供たちには申し訳な
かつたけれど、子供たちは十分理解を
してくれていました。2人の娘の結婚
式には出席できなかったけれど、長女
は私の親戚のみで2回目の結婚式を開
いてくれて、次女も前撮りの時に私を
呼んでくれたんです。今、孫の世話を
してその分は返しています。そして、自
分自身の健康も考えて週1回自分の
時間を作ってテニスを楽しんでいます。





5月は「赤十字運動月間」です

5月1日は、日本赤十字社の前身である「博愛社」が創設された日であり、5月8日の「世界赤十字デー」は赤十字の創始者であるアンリー・デュナンの生誕の日です。こうした歴史的な日のある5月を『赤十字運動月間』として、赤十字の理念や活動へのご理解とご協力を呼びかけています。困っている人や苦しんでいる人びとを救うために、赤十字の活動への参加やご支援をよろしくお願い致します。

人事異動のお知らせ

平成31年4月1日付 豊寿園の人事異動をお知らせいたします。

荒巻 義徳	日本赤十字社九州ブロック血液センター総務副部長	⇒ 豊寿園 園長へ
上田 健太	1階特養棟介護職員	⇒ 2階特養棟介護職員へ
城戸 匡美	デイサービス生活相談員	⇒ 1階特養棟介護職員へ
井上 翔平	2階特養棟介護職員	⇒ 1階特養棟介護職員へ
豊川 恭恵	2階特養棟介護職員として採用	
井上 智恵美	嘱託事務職員として採用	
磯邊 久子	臨時厨房職員として採用	

あとがき

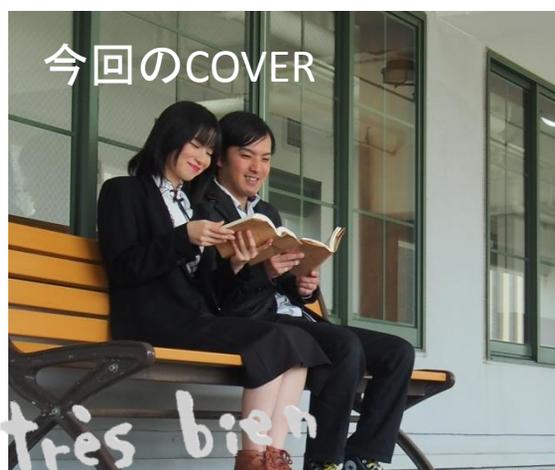
春は出会いと別れの季節とは言いますが、豊寿園でも森園長が定年退職となり、荒巻新園長が着任いたしました。

また、新しい元号が「令和」と発表され、今年度は様々な変化の年となりそうな予感がしています。

私が入職した当時は「明治」生まれの方も多くいらっしゃいましたが、今ではほとんどの方が昭和生まれの方になってきました。これから数年後には、利用者様ほとんどが戦後生まれの方となり、今の方々とは違う習慣や価値観に私たちは向き合わなければなりません。そういった変化へ柔軟に対応しつつ、価値を感じていただけるサービスをいかに提供することができるか、今からその準備を進めていかなければと思いを新たにしました年度初めです。

この『豊かな樹』では、豊寿園が今、取り組んでいる事柄を余すことなくご紹介していきます。是非、ご期待ください。

平成31年度広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、安達和正さん（特養2階介護職員）、紗矢香さん（特養1階介護職員）ご夫婦です。昨年入職した期待の若手介護職員で、入籍したばかりの新婚さんです。仲良く、花粉が飛び交う屋外での撮影に快く協力してくれました。



3月20日
新門司保育所へ今年度最後の交流に訪問しました！

毎年交流を行っています新門司保育所と今年度最後の交流として、利用者の皆さんと保育所にお邪魔してきました。子供さん達から歌やお遊戯を見せていただいたり、プレゼントを渡し合うなど楽しいひと時を過ごさせていただきました。



3月8日
小倉南区若園の住民対象サロンへ出講しました！

小倉南区社会福祉協会からご依頼いただき、若園校区にある住民対象のサロンへ、奥水介護課長が出講しました。当日は、地域住民の方を対象に介護予防の体操をお楽しみいただきました。



年賀式



1月 新年の始まりに森園長の挨拶と新年祈願で
いただいていたお神酒を利用者の皆様へお配りし、
今年一年の無病息災を祈念しました。

節分



2月 職員の扮する鬼に皆さんで玉を投げつ
けていただき、節分をお楽しみ頂きました。

獅子舞鑑賞会



2月 一流 祝金獅子會の方にお越しいいただき、
獅子舞いの演舞をご披露いただきました。
利用者の方も獅子舞に囀んでいただき、今年一
年の厄除けをしていただきました。

ひな祭り



3月 ひな祭りのお祝いで、利用者の皆さん
とケーキバイキングやレクリエーションを
お楽しみいただきました。

デイサービス

書き初め



1月 お正月の書き初めをしました。

初詣



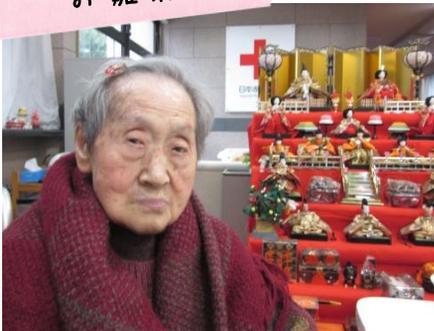
1月 恒見八幡神社に初詣に出かけました。

おやつ作り



2月はチョコレートフォンデュ、
3月は桜餅風のおやつを作り、美味しくいただきました。

お雛祭り



3月 雛人形の前で桃の節句を
楽しみました。

お花見ドライブ



3月 和布川公園に桜を見にドライブに行きました。
桜は少し早かったですが、笑顔は満開でした。

座

談

会

You were young in those days.

— どうして豊寿園に就職したいと思ったのですか？ —

野呂澄子：私は母の介護をしていたのですが十分にできなかった、という後悔があったんです。仕事として介護をすることで、利用者の皆さんに日々楽しく生活していただけたら、と思って応募しました。

永野文隆：私は前の仕事を定年になってから1年経ったころに求人を見つけました。近所にも高齢者が多いし、経験があれば何らかの相談にも乗れるかな、と思って応募しました。



— 入職当時と今とを比べると、どこが、どう変わったと思いますか？ —

前田亜由美：20歳で入職しましたが、気が付いたら30歳になってました(笑)。

城戸匡美：私も気がつけば体重が…(笑)。

野呂澄子：私はずっとデイサービスで勤務していますが、利用者様の介護度が高くなってきたのを感じます。その分、密に関わりを持たないといけないと思っています。

TALK ✕ TALK

— 入職当時のエピソードや、入職して良かったと思うところは？ —

城戸匡美：私は地元が離れていて土地勘がありませんでした。夕方に利用者様の送迎に出た後、戻ろうと思ったんですがどこに居るのか分からなくなって迷子になったことですね(笑)。

前田亜由美：介護拒否のある方への関わり方が分からなくて、いきなりその方にピンタされた時には何が起きたのか分からなくなりました。良い思い出です(笑)。

野呂澄子：男女ともに若い職員達が本当一生懸命になって介護している姿を見ると、胸を打たれます。

永野文隆：職員同士の仲が良く、働きやすい職場です。



— これから豊寿園で成し遂げたいことはありますか？ —

永野文隆：私たちと一緒に、建物や設備機器も年をとっていくので、少しでも長持ちするよう日ごろからのメンテナンスを心がけたいです。

野呂澄子：これからも温かい心と明るい笑顔で利用者様と接していけたら、と思います。

前田亜由美：何か新しい資格を取りたいと思っています！

城戸匡美：利用者様が施設内だけでなく、地域活動にも参加できるようになれば良いな、と思います。

SPECIAL SECTION

THE HISTORY OF HOJUYUEN

豊寿園の歴史を彩ってきた職員達を、順番にご紹介していくコーナーです。
8回目は、平成21年に入職した職員4名をご紹介します。

— 同期入職者の紹介 —
You were young in those days.



永野 文隆

事務課経理係

平成21年に59歳で豊寿園に入職。デイサービスの送迎運転手を経て、現在は船の技術職だった経歴を活かして事務課で建物の営繕管理を担当。『永野工務店』の愛称で各部署からの信頼は厚い。



野呂 澄子

デイサービス介護職員

平成21年に59歳で豊寿園に入職。以来、デイサービス一筋で勤務。趣味は山登りの他に、詩吟、銭太鼓。特に銭太鼓は園内の催しで職員が披露する際に、稽古をつけてくれるみんなのお師匠様。



城戸 匡美

特養棟1階 介護職員

平成21年に40歳で豊寿園に入職。生活相談員、居宅ケアマネ、デイサービスでの勤務を経て、今年4月より1階特養棟へ異動。広報誌では、表紙写真を毎月担当。豊寿園の名物カメラマン。



前田 亜由美

特養棟1階 介護職員

平成21年に麻生医療福祉&観光カレッジを卒業後、20歳で入職。以来、1階特養棟一筋で勤務。中堅職員として業務を行う一方、手先の器用さを活かして、1階フロアの飾りつけなどを率先して担う。

At that time you were young



前職で船に乗っていた当時の写真



平成21年入職当時の芋掘りの写真



大好きな沖縄へ旅行した時の写真



平成21年入職当時の夏祭りの写真

Spring 2019

Vol.42

TOPICS

HOUJYUEN× FAMILY

MORE CROSS

HOUJYUEN'S ALBUM

SPECIAL SECTION



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN